新しい薬学をめざして 35, 231-232 (2006).

憲法9条と私　6

『憲法九条を世界遺産に』

川上美登里

この間，靖国参拝問題や北朝鮮の核実験・日本海領域での問題などを格好の材料として，「軍隊を持つべきだ」「核をもつべきだ」「憲法 9 条の改憲を」などの発言で新聞やテレビが賑わっています。世論はこんな風にして先導されていくのだろうと思います。

団塊の世代の真只中で生きてきて，戦後の食糧難や GHQ などの米兵の影など記憶にはないが，黄色くなった松葉杖をついた軍服姿の父親の写真や，アルミの容器に入れられた脱脂粉乳を飲み干さないと下校できなかった辛い思い出などが浮かんできます。

基地の電気工事関係で働いていた父親に連れられて岩国基地の内部をジープで回ったことがありました。ここで，案内してくれた黒人の米兵を前に，私は固まってしまって，また大嫌いなチョコレートのソフトクリームを貰って，ぽたぽた溶けていくクリームを恨めしく睨んでいた自分を思い出します。

今でこそ，チョコレートは食べられようになったけど，脱脂粉乳の温められた匂いは幼い頃を思い出し，乳製品は苦手です。黒人米兵には悪いことをしたなと思っています。それから，自分の考えで行動できるようになった時は，ベトナム戦争が戦われていました。反戦運動に参加しながら，戦争の悲惨さ無情さは，実体験ではなかったが，映像や記事や現地からの報告などで知ることができました。

枯葉剤の被害など，その当時先輩が現地調査に参加し，その被害の実態を聞き，怒りに涙したものでした。今はイラクで劣化ウラン弾の被害が静かに進行していますが，これから先どれだけの影響がでるか，計り知れません。

一度 起こしてしまった過ちを，どれだけの犠牲の下に修復しなければならないか。広島・長崎で十分ではないかと思うのですが，争いは繰り返されています。

戦後 60 年以上，日本は他国民を殺傷したことはなく，それが「憲法 9 条」があるからと思われるのに，この 9 条をなくそうと着々と準備しているやからがいる。こんな動きの中で，単に国民投票で反対票を投じるだけでなく，何か行動を起こしたいと思っていますが，未だ見つからない状態で，悶々としていました。

ふとした偶然で，『憲法九条を世界遺産に』（集英社新書）という太田光と中沢新一の対談形式の本を読んだ。タイトルが非常にユニークで心惹かれるものでした。

私は，太田光自身お笑い芸人としか認識していませんでしたが，大変な読書家で，知識と洞察力に優れた中々な人だなと思いました。

対談の中で,「憲法 9 条は，たった一つ日本に残された夢であり，理想であり，拠り所なんですよね。どんなに非難されようと，一貫して他国と戦わない。二度と戦争を起こさないという姿勢を貫き通してきたことに，日本人の誇りはあると思うんです。他国からは，弱気，弱腰とか批判されるけど，その嘲笑される部分にこそ，誇りを感じていいと思います」という表現で太田光は言っている。

また,「憲法九条を世界遺産に」という発想が生まれたのは，ジョン・ダワーの『敗北を抱きしめて』(岩波書店）を読んだときだそうです。この本を読んで，当時の日本国憲法ができた時の詳しい状況から，この憲法は，ちょっとやそっとで起こりえない偶然が重なって生まれた突然変異であり，日米の合作であの無垢な理想憲法が作られた瞬間は，あの瞬間でなければでき得ないものであり，奇跡的な成立をしたものであると語っています。

この本を読みながら，私は，新鮮な感覚と，こんな考え方もできるのかという驚きでいっぱいでした。そして理解できない部分もいくつかあったが，こんな憲法 9 条を守ろうとする思いや，表現の仕方があったんだと思いました。

これからの憲法 9 条を守るための行動や，広く理解を求めるための取り組みに，一石を投じる本に出会えたと思いました。

行動はこれからですが，あとから振り返って，あの時，私たちはなぜ「憲法 9 条」を守れなかったのかなどと後悔しないように頑張りたい。